

あじき



第 97 号

2018 年 9 月

日本野鳥の会三重 <http://miebird.org/>



三重県内でも昨今森林を伐採し、太陽光発電を作る計画が各地で見られる。どうみても自然破壊にしか思えない。たしかにアセスメントの制度があるが、所詮、知事も意見を述べるが、それに拘束力はない。周囲の住民の意見も聞き入れなければならないとの法律もない。現在の日本の法律では地主はほぼフリーハンドで何事もできるようである。

しかし、考えてみるとその土地にある自然は地主の努力によって形成されたものとは言えない。耕地で収穫される農作物はたしかに耕作努力の結果である。今の日本の農地では耕作者のほとんどが地主であり、この場合は地主のものである。これに異議を唱える人はいないだろう。

ある人の所有地に生育した森林、棲息する鳥獣、昆虫などは誰のものなのであろうか？ 地主の努力により、生まれたものではない。なんら手を加えなくてもそれらは生育あるいは、棲息する。それをすべて地主が支配できるとするのはおかしいのではないだろうか。

第二に自然はある一つの区画だけで形成できるものではない。鳥や昆虫など飛ぶ動物はいうまでもなく、植物であっても種子や花粉など、また栄養分や水も周囲の土地からの、あるいは周囲の土地への飛散があり、植物の集団が維持できるものである。その土地の自然を破壊することは必然的に周囲の土地、法律的には他の所有者の土地の自然に影響を及ぼす。

また、土地は有限のものである。所有物でも自動車や建造物は無限ではないが、経済が発展すれば増やすことができる。しかし、土地はいくら経済が発展しても増やすことができない。むろん、水面の埋め立ては若干できるが、それも技術的に限りがある。

こうして見ると土地の利用については公的な制限があってもしかるべきであろう。技術が進歩した昨今、どんな大面積であろうともたちどころに改変できる。少なくとも自然の改変については厳しく制限すべきであろう。土地に付随する自然についても、もっと踏み込んだ考えが必要であろう。

かなり前であるが学会でノルウェーを訪れた時、周辺の野山を散策する機会があった。そこに看板があり、現地語ではなく、英語であったので、私でも理解できた。

目次

自然は誰のものか	2
表紙のこぼれ	2
ミヤコドリ越夏調査	3
四日市市足見川周辺におけるサシバの繁殖	4
足見川探鳥会に参加して	5
富士山麓宿泊探鳥会 報告	6
宿泊探鳥会へ参加して	8
三重県ガンカモ調査結果 2018年1月	8
シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化	
13回 ウズラシギとアメリカウズラシギ	10
野鳥記録	14
事務局だより	15
今後の探鳥会予定	16
探鳥会報告 (2018年4月～2018年7月)	17
会報「しろちどり」バックナンバーの	
ウェブ上での公開について	20
編集後記	20

表紙のこぼれ

津市 石原 宏

ミュビシギ

毎年、私は春5月の中頃には近くのどこかの海岸で北へ繁殖のため旅立つミュビシギの群れを見送るようにしています。

この海岸で越冬した群れとか渡りの途中に立ち寄った群れとかイロイロですが、殆どが赤みがかかった。夏羽になっています。

そして、この時期・8月末から9月にかけて早い子たちは帰ってきます。夏羽から冬羽への換羽の途中なのでさまざまなグラデーションの個体に出会えるのもこの時期です。

津市の河芸海岸、白塚海岸、町屋海岸、中河原海岸、香良洲海岸などでは何処かで何時かはこの子たちに会えると思います。

「この地のどこでも入ってもよい、さまよってもよい、キャンプしても、草の実を取ってもよい。それは国民の権利である」と記されていた（写真および追記参照）。同様な権利は北欧、バルト海沿岸諸国、スコットランド、アイルランド、オーストリアなどヨーロッパの多くの国で確立されている。日本では所有している土地に他人が立ち入ることは地主が当然拒否できるであろうが、彼の地では全く逆である。日本の土地所有感とは全く違う。彼の地では自然は地主のものではなく、やはり国民のものであったのだ。日本でも土地に付随する自然についての公衆の権利をもっと認めるべきであろう。むろん、地主の恣意による自然破壊も当然厳しく制限されるべきである。こんな法律が日本でもほしいものである。

（追記）

ノルウェーで見た立て札（意識している部分もある、心得のある方は訳していただきたい）
「野山を楽しむ権利はほとんど制限なく、我々に与えられている。

人々が野山に立ち入る権利はノルウェーの文化的な遺産の重要な要素であり、1957年に、公衆の入会（Public Right of Access）法により定められた。その法は誰が地主であるかによらず、適用される。その他の点についてもほとんど制限はなく、将来に渡って、我々は自然を体験することができる。

It gives us the right to enjoy the countryside almost without restriction

Public Right of Access is an important part of the cultural heritage of Norway that was legalised in The Outdoor Recreation Act of 1957, and applies regardless of who owns the land. By respecting others, and the few regulations that exist, we can experience nature also in the future.

The Public Right of Access applies to open countryside, where you may:

- roam freely on foot and on skis
- ride or cycle on tracks and paths
- picnic and stay the night
- pick berries, mushroom and flowers
- swim, paddle, row and sail on the sea, lakes and rivers
- fish salt water fish without having to pay

ノルウェーで見た看板

この法は野外に適用され、そこであなたは以下のことができる。自由に歩き回る、スキー、自転車で山道を走る、ピクニック、夜を過ごす、草の実やきのこ、野の花を取る、泳ぐ、湖や海、川で舟を漕ぐ、帆走する、入漁料無しで海の魚を取る。」

ミヤコドリ越夏調査



津市 今井 光昌・平井 正志

伊勢湾におけるミヤコドリの生息数調査はこれまで、冬季に行われてきた。2017～2018年の冬季では100羽以上が記録されている。これまで、夏にでも見られることが知られていたが、伊勢湾各地を網羅し調べたことがなかった。今回、2018年8月4日9時30分から10時30分に調査した。当日は小潮で松坂港の満潮は10時31分であった。

結果、雲出川河口で15羽が確認された。他の調査地ではミヤコドリは見られなかった（表）。なお、雲出川河口では6月の30日まで19羽残っていたが、7月に入り15羽になり、8月4日の調査日も15羽見られた（今井）。2018年は15羽程度が越夏していると考えられた。なお、調査に参加した会員は笹間俊秋、安藤宣朗、岡八智子、今井光昌であった。

表：ミヤコドリ越夏調査
2018年8月4日 9:30～10:30

調査地	ミヤコドリ 個体数
高松海岸	0
鈴鹿川河口	0
鈴鹿川派川河口	0
楠海岸	0
安濃川河口	0
雲出川河口	0
五主海岸	15
金剛川河口	0
櫛田川河口	0

四日市市足見川周辺におけるサシバの繁殖

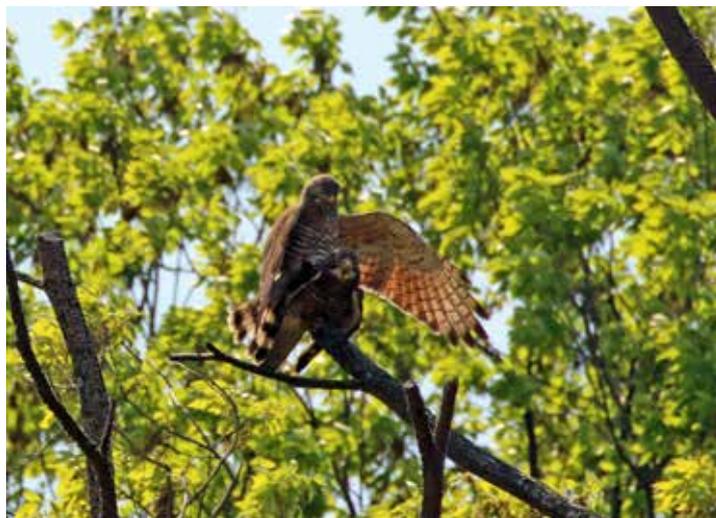


四日市市 笹間 俊秋

四日市市の波木町、山田町、小林町にまたがる足見川メガソーラー発電所建設予定地の丘陵地には2つがいのサシバが営巣しています。ここは昨年、三重県知事意見書にてソーラーの建設は周辺の自然環境に多大なる影響があると言うことで中止要請がなされました。それにも関わらず事業者は予定を変更して、うまくごまかしながらも建設を強行する気配を見せています。当会は事業者の意向を確認するため、2018年4月16日に会談を申し込みました。私は2016年、2017年の過去2年に渡り足見川にてサシバなどの野鳥の観察をしてきましたが、事業者との会談をするに当たって今年、2018年も足見川メガソーラー予定地、およびその周辺を観察することにしました。

サシバの渡来

過去2年の観察は6月の抱卵期から巣立ちの時期でした。そのため4月の渡来直後の観察は初めてで、サシバがどのような行動するのかは分かっていませんでした。とりあえず事業者との会談前の4月9日に観察へ行ってみることにしました。まず、波木町の営巣場所周辺に行ってみるといきなり丘陵地の上空を旋回する1羽のサシバに遭遇しました。サシバはこちらの車を確認すると一瞥してすぐに丘陵地に降りて行きました。続いて山田町の営巣場所へ行くところにもサシバが1羽、高木にとまっていたことが確認できました。



サシバの交尾

つ反射的に写真を撮っていると雄の目指す高木に雌がとまっています。そして交尾を確認することができ、これで今年もここでの営巣は確定となりました。また、地元の方からすぐ近くの八王子町にも別のサシバがいると言う情報ももらっていたので、そちらも調査に行くとすぐに3羽のサシバが私を威嚇する様に旋回してきました。つがいと1羽のヘルパーであると思われました。4月20日には、ここもペアの交尾が確認され営巣していることが分かりました。波木町を中心に、この周辺の半径2キロと言う狭い範囲で3つがいが営巣していることになります。それだけここにはまだ自然が残されていると言う事だと思えます。反面、これだけ密集していると言う事はそれ以外の場所は自然破壊が進んでいる証拠とも言えるので、メガソーラーが建設されるとさらに深刻な状況になることでしょう。

サシバの巣立ち

今年も3ヶ所での営巣が確認されましたので、やはり建設予定地の中心地で営巣している波木ペアが一番重要なのでこのペアを中心に観察することにしました。抱卵中はここ2年と同じ行動をしていたので特に記載する内容はありますが、雄の餌運びが頻繁になってくると、雌のハシボソカラスへの警戒が増すことで雛の成長ぐあいが推定できるようになってきました。ハシボソカラスへの威嚇は日に日に強くなって行き、巣立ち近くには雌雄ともにハシボソカラスを激しく追い回すまでエスカレートします。



渡来したサシバ雄

翌、4月10日に昨年の観察場所（波木町）に車を止めて見ていると何度も丘陵地内での飛翔が観察出来ました。そしてしばらくするとサシバ雄が繁みから慌てて飛びだしました。何だろうと思いつ



巣立ち直後のサシバ幼鳥

7月5日の午後に観察へ行くと、いつも雌がとまっている木の上に幼鳥がいるのを確認しました。その側にはもう1羽もいましたので、今年も2羽の巣立ちが確認されました。偶然にも去年と同じ日、同じ雨の中での巣立ちでした。

サシバの営巣環境

波木ペアでは2016年には巣立ちは観察できませんでしたが、昨年も2羽、今年も無事2羽が巣立ちました。事業者は、サシバは周辺の水田での採餌が

中心なので営巣木周辺のみ残せば繁殖できると主張をしています。しかし、環境省の「サシバ保護の進め方」や波木ペアについての私の観察、詳しい方の意見などからもこのペアの採餌は丘陵地の森林の中が中心であり、水田などでの狩はそれほど多くありません。業者の残す森林だけではおそらく波木ペアの営巣は絶望的になるでしょう。メガソーラーで失われる広大な森林を狩場としている3つがすべてに影響が出るのは確実です。

今年7月に起こった西日本集中豪雨の災害では森林を伐採して設置された多くのソーラーパネル周辺の土砂流出が報告されています。しかし、マスコミはあえてこの問題には触れていない様に感じます。ですが、ネットの書き込みでは問題視する意見が多く見られます。多くの事業者は環境のためと言っていますが投資目的であることは一目瞭然で、環境対策は二の次になっています。この問題を多くの方に認識してもらい、そこで暮らすすべての人・生物を守るため環境保護の大切さを感じてもらいたいと思っています。



足見川探鳥会に参加して

四日市市 西垣 博充

昨年度は、「オオタカやサシバが舞う里山が危ない！」ということで、臨時探鳥会であったのが、今年度は定例会として開催されました。地元住民有志の人たち及び「足見川メガソーラーから里山を守る会」のメンバーの人たちと一緒に、総勢25名ほどで足見川沿いの山林や畑・水田を見てまわり、観察しました。

当日は、初夏の心地良い風が吹く中、サシバが今年も渡って来て営巣し、悠々と飛んでいるのを眺めることができ感激しました。改めて身近な里山の自然環境を守っていくことの大切さを実感しました。ただ、今年5月にメガソーラー計画地内の竹林が業者によって一部伐採されたのが影響したのかわかりませんが、当日の野鳥の種類は、昨年臨時探鳥会の約40種類より少なく17種類にとどまりました。

今回は、「足見川メガソーラーから里山を守る会」の地元メンバーの提案と呼びかけで、初めて地元山田町自治会有志の人たちと交流会をもつことができました。まだまだ第一歩という感じでしたが、今後も話し合いを続けてゆきたいと思っています。



探鳥会の様子

私は、この4月に野鳥の会三重の会員となりました。これからも足見川沿いの四日市市内に残された貴重な里山と野鳥を守り、地元の支援者と共同して活動が続けてゆきたいと思っています。ご支援をよろしくお願いいたします。



2018年7月7日(土)～8日(日)1泊2日のバス旅行・富士山麓宿泊探鳥会が無事終わりました。

毎年好評の宿泊探鳥会、今回は南勢地区が担当しました。前日まで西日本一帯でまれにみる豪雨となり開催が心配されましたが、天候・交通等に支障はなく予定通り決行になりました。

7日、バスは昨年と同様早朝に松阪を出発し、津、桑名に停車、参加会員33名を乗せ東へとひた走ります。車中では、簡単な自己紹介や小坂さんが用意してくれた鳥の鳴き声クイズを楽しみ和気あいあいとした時間を過ごしました。初日の目的地である朝霧高原にはお昼過ぎに到着予定だったので、車中で途中積み込んだお弁当を食べました。



朝霧高原散策

午後1時頃、道の駅朝霧高原に到着。空は曇り小雨もパラパラ当たってきたので、皆さんに雨具を準備してもらい出発しました。けれどもコースは地図上で大まかに決めただけで、現地の下見をしていません。不安はありましたが、現地を知る中村洋子さんに誘導してもらいながら、東海自然歩道に通じる平坦な農道を歩きました。とくにグループ分けはせず各自マイペースで進みました。前方に2000m級の山々を眺めながら、広大な草原で鳴き声を頼りに鳥を探します。

まずはセッカやオオヨシキリ、ホオジロ、モズといったおなじみの野鳥を観察しました。ふだんお目にかかれないノビタキ、ホオアカが出現すると参加者から歓声が上がりました。姿は見せなかったものの、ジュウイチ、ホトトギス、カッコウのトケン3種の声もよく聞かれ、高原ならではの野鳥を楽しみました。最後の方で本降りの雨になってしまい慌てて引き返しましたが、それも一時だけで道の駅に戻

るころにはやみました。ここから約30分で今夜の宿泊先に到着です。山梨県鳴沢村にある「吉野荘」では、客室から富士山が大きく見えました。夕食は座敷に椅子の宴会で、あちこちのテーブルで鳥談議に花を咲き交流が盛んでした。



朝焼けの富士山

8日、早朝探鳥は各自自由に行いました。私が参加したのは、女性8人のグループ。住宅と農地、森が入り混じった地域を散策しました。ムクドリのなかにコムクドリがいたり、オオルリ、キビタキ、センダイムシクイのコーラスが賑やかでした。別のコースを探索したグループからJAの建物にイワツバメが営巣していると聞き、朝食後に希望者だけで見に行きました。イワツバメの巣はツバメの巣から少し離れたところに一つ、かわいいヒナが顔をのぞかせ親鳥がひっきりなしにエサを運んでいました。



子育て中のイワツバメ

少し出発が遅れましたが、約1時間スバルラインを走って富士山五合目を目指します。

バスから富士山を眺めつつ山岳道路を進むと、霧が立ち込めだんだん雲行きがあやしくなってきました。それでも高度が上がるにつれ下の景色がきれ

いに見え、感嘆の声が聞こえてきました。バスはスムーズに奥庭のバス停に到着、昨日と同じように皆さんに雨具を着用してもらい、まずは「奥庭荘」へと出発しました。奥庭荘は登山者のための食堂・土産物販売を兼ねた宿泊施設で、バス停からゆっくり歩いて15分ほど。周辺一带は遊歩道になっており、案内板や階段が整備されています。とはいえ坂道のうえ雨で設置された石が濡れているため、足元に注意しながらの探鳥となりました。



奥庭荘へ

さっそく近くでメボソムシクイがさかんに鳴くものの、なかなか見つかりません。木々が生い茂って薄暗いなか、ようやく見つけましたが、雨足が強くなってきたので奥庭荘へと急ぎました。奥庭荘には小さな水場があり、知る人ぞ知る隠れた鳥見スポット。ここで暮らす野鳥にとって貴重な水場です。周辺には水場が少ないため色々な鳥が集まってきます。当然カメラマンも多く訪れますが、奥庭荘のご厚意で撮影マナーが保たれ鳥への影響はなさそうでした。

ここでは、奥庭荘に留まる人、遊歩道を散策する人に分かれた行動になりました。奥庭荘で早めの昼食を終えた頃、お天気が良くなってきました。久しぶりに太陽の日差しが出てくると、ルリビタキやウソなどの小鳥が、次々と水場に現れました。鳥たちは、大勢のギャラリーがいてもお構いなしで水浴びをします。とくに印象的だったのは大きな体のホシガラス、バシャバシャと水しぶきがこちらに飛んできそうな豪快さ。めったにお目にかかれない鳥たちが、間近でしかも次々と観察できました。また富士山の雄大な風景と日常では味わえない自然を存分に満喫していただけたのではないかと思います。

今回の探鳥旅行はゆったりしたスケジュールでしたが、至らない点多々ありました。天候に恵まれず高所での探鳥だったので安全面が心配でしたが、皆さんのご協力のおかげで何事もなく終了できました。ありがとうございました。



水浴びをするホシガラス

【確認種】

7月7日(土) 朝霧高原 13:30～16:00

キジ、キジバト、ジュウイチ、ホトトギス、カッコウ、サシバ、モズ、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、オオヨシキリ、セッカ、ノビタキ、スズメ、ハクセキレイ、イカル、ホオジロ、ホオアカ、アオジ 計23種

7月8日(日)「吉野荘」周辺 5:00～7:00

キジ、キジバト、カワウ、カッコウ、トビ、コゲラ、アカゲラ、サンコウチョウ、モズ、オナガ、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、センダイムシクイ、メジロ、ゴジュウカラ、ムクドリ、コムクドリ、クロツグミ、キビタキ、オオルリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ 計31種 他にハヤブサ or チゴハヤブサ

7月8日(日) 奥庭 9:00～13:00

アマツバメ、ホシガラス、キクイタダキ、ヒガラ、ウグイス、メボソムシクイ、ルリビタキ、カヤクグリ、ウソ 計9種



富士山五合目にて

宿泊探鳥会へ参加して



四日市市 加藤 あさ子

7月7、8日、富士山麓宿泊探鳥会に参加しました。宿泊探鳥会に初めて参加しました。私が野鳥と出会ったのは、自宅庭に来た野鳥に興味を持った息子(小学生)からでした。息子は若いので(笑)、本やCDですぐに鳥の種類やさえずりを覚え、小学5年生で野鳥の会に入りました。(その時に、私も今よりちょっと若かったので覚えておけばよかったです)その息子も今、26歳大阪の野鳥の会に変わりました。息子とメールで鳥の話はしていましたが、ひとりでは、なかなか覚えることも楽しむことも出来ず、昨年思い切って野鳥の会に入りました。(その時には、今年の宿泊の受付は終わっていて、今年は絶対参加したいと思っていました)

お天気は心配されましたが、朝霧高原では、小雨の中での探鳥でした。次の日の朝には、朝食前に近くを探鳥、富士山の麓で、姿はなかなか見せてくれませんが、とても綺麗なさえずりを聞くことができ、イワツバメも見ることができました。奥庭荘では、最初は小雨が降っていましたが、帰るころには雨もやみ、水場に来たホシガラス、ウソ。キクイタダキのチョコチョコ動く姿を見ることができました。初めて見たホシガラスはとても綺麗でした。バスの中では、知っている鳥の数クイズや、「新



水場に出てきたホシガラス

聞に載っている鳥はなに?」「自分を主張する鳥はなに?」などの鳥クイズで楽しく過ごすことができました。

まだ、一年生の私は初めてお会いする人ばかりでしたが、共通の野鳥の話、海蔵川に来る野鳥の話。県民の森の話。何故か伊勢湾台風の話まで……。知らなかった話をたくさん教えていただき、人生の勉強にもなる2日間でした。これからもっと探鳥会に参加して楽しみたいと思う、楽しい2日間でした。ありがとうございました。

三重県ガンカモ調査結果 2018年1月



津市 平井 正志

ガンカモ調査は長年三重県の委託事業として行われてきたが、昨年は県から資金が得られず、環境省の事業として行われた。しかし、本年2018年は県からも環境省からも資金は得られず、当会の独自事業として行った。なお、調査は当会研究部で取り組まれ、結果は県を通じて、環境省に報告した。

調査には会員30名が参加し、合計168ヶ所を調査した。表に調査地区別に集計した。調査地の中で海面や河口のものを第一区分、池、ダムを第二区分、河川を第三区分、養魚池など海に接する水面を第四区分とした。おそらくこの分別は調査員、調査地により異なるだろうが、河川下流と記載されているものは河川に、河口と記載されているものは第一区分とした。なお、四日市石原産業沖埋立地は第一

区分に、五主池、および海跡湖である紀伊長島諏訪池は第四区分にした。

結果

ガンカモの合計は39,668羽であった。本年はハクチョウ、ガン類は全く見られなかった。

最も多かったのはマガモ8,594羽で、ついでスズガモ8,007羽、ヒドリガモで6,990羽であった。スズガモの多かったのは四日市市磯津沖(1,500羽)、津市香良洲沖(1,000羽)、四日市市石原産業沖埋立地(2,246羽)などだった。マガモが多かったのは雲出川河口(834羽)、雲出古川河口(666羽)、金剛川河口(1,323羽)、また、内陸の池(第二区分)で多かったのは松阪市宝光池(520羽)、松阪市四郷

池(385羽)、明和町斎宮調整池(426羽)などだった。ヨシガモは少なく、各地にまばらに分布していて、多かったのは太陽の街調整池(23羽)、や宮川河口(20羽)くらいであった。トモエガモは総数わずか15羽で、金剛川河口で12羽が見られた。トモエガモは年次変動が激しいので、恒常的な越冬地ではなからう。

オシドリは例年に比べて少なく、合計234羽が観察されたが、神路ダム(150羽)と松阪市宝光池(57羽)で多数が見られた。安濃ダムはゼロであっ

た。なお、オシドリについてはクチスボダム(三重県が、猟友会などの援助を得て調査する調査地)で毎年多数が見られているが、本年の調査結果を入手していない。ツクシガモは総数13羽で、宮川河口では12羽が見られた。

ミコアイサは各地の池で1羽から4羽が見られたが、多かったのは津市芸濃町横山池(11羽)であった。カワアイサは河川の中流域、伊賀市服部川(3羽)、宮川中流度会町長原(2羽)などで少数が見られたが多気町五桂池(14羽)では多数が見られた。

表 区分別のガンカモ数 2018年1月

調査地点名	調査地点数	オシドリ	マガモ	カルガモ	コガモ	ヨシガモ	オカヨシガモ	ヒドリガモ	オナガガモ	ハシビロガモ	トモエガモ
総合計(T)	168	234	8,594	3,061	3,175	149	656	6,990	3,467	884	15
河口・海面合計(S)	36	0	4,718	589	991	35	402	4,750	3,211	45	12
河口海面率(S/T)		0.00	0.55	0.19	0.31	0.23	0.61	0.68	0.93	0.05	0.80
池・ダム合計	101	221	2,908	1,804	1,145	102	109	464	152	740	3
河川合計	24	13	893	662	940	7	120	1,654	67	25	0
養魚池など合計	7	0	75	6	99	5	25	122	37	74	0

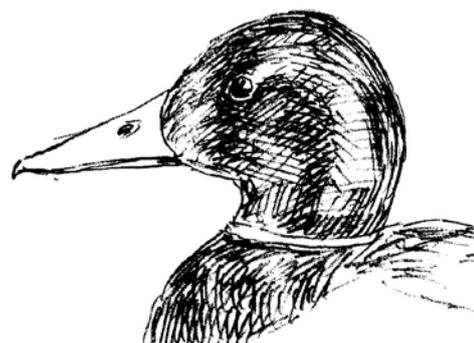
表 区分別のガンカモ数 2018年1月(続き)

調査地点名	アメリカカヒドリ	ホシハジロ	キンクロハジロ	スズガモ	ホオジロガモ	ウミアイサ	カワアイサ	ミコアイサ	ツクシガモ	総合計
総合計(T)	1	2,845	1,473	8,007	7	20	21	34	13	39,668
河口・海面合計(S)	1	1,745	541	7,662	7	17	2	0	13	24,741
河口海面率(S/T)	1.00	0.61	0.37	0.96	1.00	0.85	0.10	0.00	1.00	0.62
池・ダム合計	0	844	571	0	0	0	14	34	0	9,113
河川合計	0	158	323	345	0	3	5	0	0	5,235
養魚池など合計	0	98	38	0	0	0	0	0	0	579

ガンカモ種別総数のうち、河口・海面でカウントされた比率を表に海面率として示す。マガモでは0.55、ヒドリガモでは0.68であり、半数以上が河口や海面で見られた。海ガモに分類されるスズガモではこの比率が高く、0.96とほとんど河口や海面で見られ、内陸の池では見られなかった。しかし、海ガモでもホシハジロ、キンクロハジロはそれぞれ0.61および0.37であり、内陸の池に依存する割合が高かった。一方、陸ガモに分類されるオナガガモはこの比率が0.93と極めて高く、主に海や河口に分布していて、他の陸ガモと著しい差を示した。また、ハシビロガモでは0.05で海や河口にはほとんど出ていない。これは静止した水面の藻類を食べる習性からして、波や流れのある場所では採餌が難しいためであろう。また、オシドリもこの数値が0であった。また、ウミアイサ、カワアイサ、ミコアイサ、ホオジロガモなども観察された個体数が少ないもののこの比率では顕著な傾向を示し、ウミアイ

サ、ホオジロガモは主に海面、河口に見られ、カワアイサ、ミコアイサは主に内陸の河川、池に見られた。

なお、ガンカモ調査は当会独自の事業として行ったが、三重県農林水産部 みどり共生推進課 野生生物班 東基樹主幹によって集計され、環境省へ報告された。協力にお礼申し上げる。



マガモ



シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化 —連載 13 回 ウズラシギとアメリカウズラシギ—

津市 今井 光昌

三重県沿岸部の淡水湿地で以前は数 10 羽の群れを見ることもあったウズラシギですが、近年は渡来数が著しく減少しています。ウズラシギは本来、淡水域の湿地を好みますが、休耕田の減少からか海水域でも見られるようになりました。砂浜海岸や開けた干潟の中央部に出ることはなく、岸辺近くの泥質の場所で採餌しています。2013 年から春秋とも 10 羽を超える群れを見ることはありません。ウズラシギはシベリア北東部の限られた地域で繁殖し、オーストラリアやニュージーランドなどで越冬します。一方、アメリカウズラシギはシベリア北部や北アメリカ大陸の北部で繁殖し、南アメリカ大陸南部やオーストラリアで越冬します。アメリカウズラシギは渡りの途中にごく少数が日本に立ち寄りますが、秋の幼鳥の記録が多く春秋とも成鳥の渡来は少ないです。特に春の渡りでアメリカウズラシギが見られることは殆どありません。

ウズラシギとアメリカウズラシギの比較

体の大きさはウズラシギと比べアメリカウズラシギの方がやや大きいように見えます。図鑑での体長はウズラシギが 17-22cm で、アメリカウズラシギは 19-23cm となっています。両種の足色と嘴の色はよく似ています。嘴はアメリカウズラシギの方が長く太めで湾曲度も大きいです。ウズラシギもアメリカウズラシギも♀は♂より一回り小さいので、両種の識別には雌雄を考慮する必要がありますが、大きさも体形も上面の羽模様もよく似ている両種の最も重要な識別点は胸から腹部の縦斑の密度の違

いと胸から脇の V 字斑です。また、両種とも背に細く白い V 字形の線模様があり、上面の羽模様がよく似ているので後姿からの識別は難度が高いです。後ろ向きで両種が並んだ場合、ウズラシギは背や胸に橙味が強く、特に頭頂の赤味が強いことから、全体の印象ではウズラシギの方が明るく見えます。図 1 と図 2 は 11 月 4 日の幼鳥ですが冬羽が 1 枚も出ていません。ウズラシギもアメリカウズラシギも幼羽から第 1 回冬羽への換羽が遅いようです。



図 1 左:ウズラシギ 右:アメリカウズラシギ
2014.11.04



図 2 左:アメリカウズラシギ 右:ウズラシギ
2014.11.04



図3 ウズラシギ幼鳥 2010.10.04



図4 アメリカウズラシギ幼鳥 2008.09.20



図5 ウズラシギ幼鳥 2011.10.04



図6 アメリカウズラシギ幼鳥 2008.09.20

幼鳥の前姿

ウズラシギ幼鳥(図3)の胸は橙味があり細い縦斑があります。胸と腹との境界はぼやけています。幼鳥の胸や脇には成鳥のようなV字形の斑はありません。アメリカウズラシギ幼鳥(図4)の胸の縦斑は密で腹との境界も明瞭です。

幼鳥の後姿

ウズラシギ幼鳥(図5)とアメリカウズラシギ幼鳥(図6)は上面の羽模様はよく似ていますが、軸斑と羽縁のコントラストが弱く全体の印象がより暗褐色に見えます。ウズラシギは眉斑の白さが目立ちますが、アメリカウズラシギの眉斑には褐色斑が入ります。

ウズラシギ 雌雄の体格差

春のウズラシギはペアで行動していることが多いようです。♂は頭頂の赤味が♀に比べ強く体も大きい。♀の頭頂は褐色味が強く胸の橙味が弱いです。図7のウズラシギは左が体が小さく♀、右は体が大きく♂と判断できます。



図7 ウズラシギ成鳥 2011.05.09

第1回冬羽

ウズラシギもアメリカウズラシギも三重県での冬羽の記録はありません。図8のアメリカウズラシギは愛知県で撮影した第1回冬羽です。肩羽は灰褐色の冬羽に換羽しています。頭部や胸も含め全体に

灰色味が強くなっています。1ヶ月前の12月23日にも同じ個体(図9)を撮影していますが肩羽にまだ多くの幼羽が残る換羽中でした。



図8 アメリカウズラシギ 第1回冬羽
2010.01.23



図9 アメリカウズラシギ 第1回冬羽に換羽中
2009.12.23



図10 ウズラシギ♂夏羽 2008.05.20



図11 ウズラシギ♀夏羽 2011.05.13

成鳥夏羽

図10のウズラシギは頭部から胸の赤褐色が強い完全な♂夏羽で、図11は完全な♀夏羽です。♀夏羽は頭部から胸の橙味が♂夏羽に比べて弱いです。ウズラシギは春の渡りで換羽中の雌雄だけでなく完全な夏羽雌雄まで見ることができます。図12のアメリカウズラシギは完全な夏羽と言えるまで換羽していません。全体が淡く胸の縦斑も細く♀夏羽と考えられます。



図12 アメリカウズラシギ♀夏羽 2010.04.13



図 13 ウズラシギ成鳥夏羽 2007.08.25



図 14 アメリカウズラシギ成鳥夏羽 2007.08.25

摩耗した8月の夏羽

図 13 と図 14 は羽縁が擦り切れ黒ずんで見える 8 月の成鳥夏羽です。図 13 の個体は胸から脇に V 字斑がありウズラシギの擦れた成鳥だと分かります。図 14 は胸の縦斑と腹部の境界がはっきりしておりアメリカウズラシギの擦れた成鳥と分かります。こ

の 2 種の識別は胸の縦斑の密度と縦斑と白い腹の境界が明瞭に区切られているか、胸から脇に V 字斑があるかどうか重要な識別点になります。



図 15 ウズラシギ成鳥夏羽 2011.08.17



図 16 ウズラシギ成鳥夏羽 2011.08.17



図 17 ウズラシギ成鳥冬羽に換羽中 2015.09.07

8 月頃のウズラシギ夏羽は擦れて黒ずんで見えるのが普通ですが、図 15 の左側の個体は赤味が強く、図 16 の個体は全体に淡色で下面の褐色斑も少ないです。摩耗の程度や換羽の進み具合もありますが、幼鳥も成鳥も羽色や羽模様には個体差があります。

図 17 のウズラシギは肩羽に灰褐色の冬羽が出始めています。ウズラシギが冬羽に完全換羽するまで滞在することはまずありません。

最後に

外見の印象がヒバリシギ（図 18）もウズラシギに似ています。ヒバリシギは体がずっと小さく 13-15cm しかありませんが、大きさを比較する対象がない場合にはウズラシギとの識別に注意が必要です。ウズラシギは初列風切が三列風切よりも突出しており尾羽も初列風切先端と同程度なのに対し、ヒバリシギの三列風切は初列風切や尾羽と同程度の長さです。ウズラシギの足は緑っぽい黄色ですがヒバリシギの足は黄色っぽい緑です。図 18 の個体は泥が付着し黒く見えています。



図 18 ヒバリシギ成鳥 2018.08.09

野鳥記録 (2018年6月1日から2018年8月15日までに報告があったもの)



野鳥の種類名	個体数	観察月日	観察場所 (三重県)	雄 / 雌 / などの区別	記録報告者名	脚注
チュウビ	2	4月22日	桑名市	雄・雌	今西 純一	1
メジロ	1	6月5日	いなべ市藤原町	不明 (色素異常?)	山神 勝治	2
ツバメチドリ	1	6月21日	木曽岬町	成長	山神 勝治	3
コゲンカンドリ	1	7月1日	津市安濃川河口 中川原海岸	メス 成鳥	玉田 浩司	4
ホシハジロ	1	7月8日	鈴鹿市千代崎港	メス	寺尾 日那	5
ヤマシギ	2	1月6日～	志摩市鵜方	初認	森口 道夫	6
タマシギ	1	1月7日～	志摩市鵜方		森口 道夫	7

脚注

1. 番 (つがい) と思われる二羽がエサの受け渡しを行いました。添付画像は本日撮影したエサの受け渡しです。左上から右回りに見てください。最初は尾羽の白い個体がエサを持っていますが、3枚目からは尾羽に黒い1枚のある個体がエサを持っています。
2. 一瞬何鳥?とびっくりしました。まさか橙褐色のメジロが居るなんて。色素異常でしょうか?
3. この時期に早くも繁殖地から戻ってきたのだろうか? 成長夏羽の綺麗な個体でした。
4. かなりの強風下、砂浜で釣りをしていると上空にもものすごいスピードで飛んできました。明らかにカワウやカモメ類とは違う特徴的な尾羽と青く見えるくちばし、黒く二本に分かれた尾羽が印象的でした。
5. この時期にホシハジロがのんびりと泳いでいたので驚きました。怪我をしているわけでもなさそうだったのでなぜ1羽だけいたのか気になります。
6. 越冬中 2羽の内1羽は、1月14日初認で越冬中
7. 越冬中



メジロ: 山神 勝治



～お知らせ～

三重テレビ「伊勢 美し国から」
第1、4日曜日 午後6時30分から放送

番組冒頭、24節気の野鳥と言う事で、各季節の三重の野鳥を紹介しています。

当会が制作に協力しています。是非見てください。



チュウヒ:今西 純一



ツバメチドリ:山神 勝治



ヤマシギ:森口 道夫

事務局だより

活動の記録 (2018年6月～8月)

2018年

- 6/ 日本野鳥の会 写真展「鳥のいる日本の風景」へ協力
- 6/ 三重テレビ番組「伊勢 美し国から」へ協力
- 6/25 玉城町勝田大池へ計画中の太陽光発電施設について、
事業者・京セラコミュニケーション(株)から説明を受けた
- 7/1 会報「しろちどり 96号」発行・発送作業
- 7/17 フクロウの巣箱かけ作業
- 8/4 ミヤコドリ越夏調査

今後の探鳥会予定（詳しくは行事案内、ホームページをご覧ください）



新たに計画された探鳥会です。

● 10月14日（日）市木川河口及び水田探鳥会

見どころ／ノビタキ、ムネアカタヒバリ、サギ類など見られますので、お楽しみに。

開催地／南牟婁郡御浜町 市木

集合／9:00 道の駅「パーク七里御浜」 解散／12:00 市木川河口

交通／自家用車：国道42号線→道の駅「パーク七里御浜」

JR阿田和駅すぐ近く

持ち物／双眼鏡・水筒・帽子・雨具・筆記用具

コース上のトイレ／なし

共催／御浜町役場、環境省近畿地方環境事務所・熊野自然保護官事務所

問い合わせ／中井 節二 090-7028-4978 笹間 俊秋 090-8739-8271

● 10月28日（日）木曾岬干拓地探鳥会

雨天決行！

開催地／愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

集合／9:00 愛知県弥富野鳥園

解散／12:00 集合地

● 11月4日（日）中村川探鳥会 小雨決行！

開催地／松阪市嬉野一志町 中村川中流域

集合／9:30 サークルK 駐車場

（「中川駅北1」信号近く）

解散／11:30 現地

● 11月17日（土）三滝川かんさつ会 小雨決行！

開催地／三重郡菟野町 三滝川河川敷

集合／9:30 大羽根グランド駐車場

解散／12:00 集合地

● 11月18日（日）安濃川河口探鳥会

開催地／津市高洲町 安濃川河口

集合／13:00 安濃川河口 右岸の先端 東屋

解散／15:00 現地

● 11月23日（金・祝）海蔵川で鳥見 i n g !

開催地／四日市市西坂部町 海蔵川沿い

集合／9:40 海蔵川代官橋 北詰

解散／12:00 集合地

● 11月25日（日）木曾岬干拓地探鳥会

雨天決行！

内容は、10月28日と同じです。

● 12月9日（日）員弁川探鳥会

開催地／いなべ市員弁町 員弁川周辺

集合／9:00 県立いなべ総合学園高等学校駐車場

解散／12:00 集合地

● 12月9日（日）身近な冬鳥を観察しよう

（博物館周辺の溜池）

開催地／津市一身田上津部田

三重県総合博物館周辺の溜池

集合／9:30 三重県総合博物館

2階エントランスホール

解散／11:15 集合地

● 12月9日（日）ベルファーム探鳥会 小雨決行！

開催地／松阪市伊勢寺町

松阪農業公園ベルファーム

集合／9:30 ベルファーム 匠の館前

解散／12:00 現地

*行事案内で持ち物にあった弁当は必要ありません。

● 12月16日（日）横山池・安濃ダム探鳥会

開催地／津市芸濃町 横山池・安濃ダム

集合／10:00 津市芸濃文化センター駐車場

解散／12:00 安濃ダム

● 12月16日（日）磯部川水系探鳥会 小雨決行！

開催地／志摩市磯部町穴川 穴川～迫間

集合／9:30 志摩市磯部町穴川公民館

解散／11:30 集合地

● 12月23日（日）木曾岬干拓地探鳥会

雨天決行！

内容は、10月28日と同じです。



●木曾岬干拓地探鳥会探鳥会

2018年4月22日(日) 9:00～12:00
 愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地
 共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会
 近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者18名(会員14名)
 キジ(5)、マガモ(2)、カルガモ(10)、ハシビロガモ(6)、コガモ(6)、キンクロハジロ(1)、カイツブリ(1)、キジバト(10)、カワウ(40)、アオサギ(4)、ダイサギ(3)、オオバン(2)、ケリ(20)、コチドリ(5)、チュウシャクシギ(2)、クサシギ(1)、イソシギ(3)、トビ(1)、ノスリ(1)、コゲラ(1)、ハヤブサ(1)、ハシボソガラス(10)、ハシブトガラス(100)、シジュウカラ(1)、ヒバリ(20)、ツバメ(1000)、ヒヨドリ(4)、ウグイス(10)、センダイムシクイ(1)、メジロ(1)、オオヨシキリ(1)、セッカ(4)、ムクドリ(20)、ツグミ(2)、スズメ(100)、ハクセキレイ(1)、カワラヒワ(10)、ホオジロ(3)、アオジ(3)、ドバト(50) 計40種

ツグミもオオヨシキリも観察できました。水田にはチュウシャクシギが2羽入っていました。旅鳥や夏鳥がやってきても冬鳥がまだ残っている季節の変わり目の探鳥会でした。

●瀬戸林道探鳥会

2018年4月29日(日) 9:30～12:00
 津市美里町桂畑 瀬戸林道
 奥山 正次 参加者15名(会員13名)
 アオバト、トビ、カワセミ、アオゲラ、カケス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、メジロ、ミソサザイ、カワガラス、キビタキ、オオルリ、スズメ、キセキレイ、セグロセキレイ 計22種

暖かくて風も無く日和は絶好でしたが、期待したオオルリ・クマタカ・カワガラスは姿を見せてくれず残念でした。イワツバメがいつもの所で歓迎してくれたのが、せめてもの慰めでした。

●鈴鹿川派川探鳥会

2018年4月30日(月) 10:00～11:45
 四日市市楠町南五味塚 鈴鹿川派川河口 右岸
 安藤 宣朗 参加者12名(会員10名)
 キジ、ヒドリガモ、コガモ、ウミアイサ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ダイゼン、シロチドリ、メダイチ

ドリ、チュウシャクシギ、ハウロクシギ、アオアシシギ、キアシシギ、イソシギ、カワセミ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、オオヨシキリ、ムクドリ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計28種

快晴、無風、絶好の鳥見日和。だが潮干狩り、魚釣りにも最適な日和、鳥たちは人を避けてあちこちへ移動する。堤防上から見渡すとシギ、チドリ、サギ、渡りの遅いカモ類が点在する。

県の希少種に指定されたシロチドリやチュウシャクシギ、メダイチドリなどシギ・チドリ類が8種。ウミアイサやコガモなどカモ類3種。他17種、合わせて28種が観察された。

今日の探鳥会には、京都、滋賀、岐阜からの参加者や、当会に入会后初参加2名などの参加者があり、和気あいあいの楽しい探鳥会であった。本日の目玉は、夏羽のきれいなメダイチドリかな!?

●上野森林公園 Two Round (ツーラウンド) 探鳥会

2018年5月6日(日) 6:00～8:00・8:30～10:30
 伊賀市下友生松ヶ谷1 三重県上野森林公園
 共催団体/上野森林公園・三重県環境学習情報センター
 前澤 昭彦 玉田 浩司 参加者36名(会員11名)
 カルガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、トビ、オオタカ、コゲラ、アオゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、コサメビタキ、キビタキ、スズメ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ、コジュケイ 計26種

早朝の6時開始の探鳥行でしたが、遠くは伊勢市や四日市からも多数参加をいただいた。森林公園のご好意でバーダー5月号の「つばめのすごろく」をカラーコピーしていただき、参加者に配布し、野鳥の子育ての多難さを知ってもらった。コサメビタキをゆっくりと観察できた。他にメジロ、ホオジロ、カワラヒワもプロミナーで観察できた。



●金剛川河口探鳥会

2018年5月9日(水) 9:30～11:30

松阪市高須町 金剛川河口

中村 洋子 加藤 恭子 参加者 10名(会員 8名)

ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、スズガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ケリ、コチドリ、チュウシャクシギ、ホウロクシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、ハマシギ、トビ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、オオヨシキリ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ホオジロ、カワラバト 計 28種

前日の雨で川の水位が高く、下見の日にはオオソリハシシギ、メダイチドリ、ダイゼン、ハマシギ等、胸が赤くなっていた(ダイゼン、ハマシギは胸、腹が黒い)のに、今日は色のついた鳥は目の前にはいません。ガックリ! キアシシギは堤防下の石積の上に沢山、休んでいました。

●安濃中央公園探鳥会

2018年5月12日(土) 9:30～12:00

津市安濃町 安濃中央公園

齊藤 加代子 西村 泉 参加者 12名(会員 11名)

キジバト、トビ、ノスリ、コゲラ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ 計 14種

池に沿う緑の樹間の径を、鳥声の主を探したが少なかった。市民公園としてコンクリートの柵ができ、岸の木も伐られ、野鳥にかけてよりも嫌われているらしい。池のいきものが減少したと地元の人声があった。鳥の好む実のなる樹も多いので、探鳥・樹木観察は秋が良いと思う。

●海蔵川で鳥見ing!(バードウォッチング)

2018年5月8日(火) 9:45～11:30

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

川瀬 裕之 参加者 11名(会員 10名)

キジ、カルガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ケリ、カワセミ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、ムクドリ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ、ドバト 計 18種

今年度一回目の探鳥会でしたが、はっきりしない天気午後から雨が降りそうな空模様の中、開催となりました。五月になったというのにキンクロハジロがまだ悠々と川面をおよいでいるのを見ながらスタートしました。湿度がやや高く、ややムシツとしているせいかあまり鳥の出がよくありませんでした。それでも此処の定番アイドル、カワセミは綺

麗な姿を幾度となくみせてくれて初参加の方も大喜びのうちに閉会となりました。

●朝明溪谷探鳥会

2018年5月19日(土)17:30～20日(日)10:00

菰野町 朝明溪谷

辻 秀之 近藤 義孝 参加者 16名(会員 15名)

キジバト、アオサギ、ツツドリ、ノスリ、コゲラ、アオゲラ、カケス、ハシボソガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ヤブサメ、メジロ、ミソサザイ、カワガラス、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、キセキレイ、イカル、ホオジロ 計 22種

朝明茶屋に宿泊してのナイトウォッチングは強風のため中止になりましたが、久しぶりのメンバーも混じえて夜遅くまで鳥談義を楽しみました。

翌朝は未明の4時に起床して、日の出を待って早朝探鳥に出かけました。朝明溪谷の源流部を巡り、オオルリやミソサザイなどの姿やさえずりをゆっくり楽しんだ後、朝明茶屋に戻り解散。第2ラウンドに出かけた参加者もいらっしました。

●伊勢おはらい町ツバメ探鳥会

2018年5月20日(日) 8:00～9:30

伊勢市今在家町 内宮おはらい町

西村 泉 中西 章 参加者 11名(会員 11名)

ハシボソガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、エナガ、ムクドリ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、カワラバト 計 11種

昨年より1週間遅くした探鳥会でしたが、まだ抱卵している巣が多いように思いました。おはらい町のツバメは人慣れしているので、巣の下で観察していても親鳥が頭上すれすれに巣に戻ってきます。参加者はツバメとの近さに驚き、感動されている様子でした。おはらい町をぬけて五十鈴川の鳥を観察しましたが、あまり種類は出ず、そのうち人も多くなってきたので、早めに切り上げました。



セグロセキレイ

●霊山寺探鳥会

2018年5月20日(日) 8:00～10:30

伊賀市下柘植 霊山寺

前澤 昭彦 南 一朗 参加者5名(会員5名)

コジュケイ、キジバト、ツツドリ、トビ、サシバ、ノスリ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ヤブサメ、メジロ、キビタキ、オオルリ、キセキレイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ、キツツキ類(種不明)、計24種

参加者は会員ばかりの5名。最初にヒノキの樹冠の枝先にさえざるウグイスをじっくりと観察しました。駐車場や境内をゆっくりと移動し探鳥。オオルリを直近に見られました。キビタキも頭の上すぐのところに出現。キセキレイのさえざりがずっと続く中で23種の生息を確認しました。

●三滝川かんさつ会

2018年5月26日(土) 9:30～11:45

三重郡菟野町 三滝川河川敷

矢田 栄史 参加者7名(会員5名)

キジ、カルガモ、キジバト、カワウ、イカルチドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、オオヨシキリ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計19種

オオヨシキリの大きな声をききながら、セグロセキレイとカワラヒワの親子の様子をじっくりと観察した。ヤナギの木のでっぺんあたり、ちょうど葉がなにもない横枝にとまるウグイス。対岸で距離はあったがスコープで観察。予定コースの半分ほどしか移動できなかったが、おおむね好評でした。

●木曾岬干拓地探鳥会探鳥会

2018年5月27日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

笹間 俊秋 参加者15名(会員7名)

キジ(1)、カルガモ(21)、コガモ(1)、キジバト(12)、カワウ(50)、ゴイサギ(1)、アマサギ(5)、アオサギ(20)、ダイサギ(10)、チュウサギ(2)、コサギ(3)、オオバン(1)、ケリ(9)、コチドリ(1)、タシギ(1)、ミサゴ(1)、ハチクマ(1)、トビ(3)、ハシボソガラス(30)、ハシブトガラス(150)、ヒバリ(20)、ツバメ(30)、ヒヨドリ(1)、ウグイス(5)、オオヨシキリ(5)、セッカ(15)、ムクドリ(20)、スズメ(30)、ハクセキレイ(3)、セグロセキレイ(1)、カワラヒワ(10)、ホオジロ(1)、ドバト(20) 計33種

朝から気温が上がったため鳥もあまりいませんでした。田んぼには各種サギ類が餌をとっていました。その中で、アマサギが今季初めて5羽確認出来ました。干拓地ではチュウヒの姿は無く、猛禽はミサゴが確認できただけでした。しかし、野鳥園へ帰り鳥合わせをしている時に、上空をハチクマが飛び、皆さん熱心に観察されていました。

●倉骨峠探鳥会

2018年6月10日(日)

雨天中止となりました。

●足見川探鳥会

2018年6月17日(日) 10:00～11:30

四日市市山田町 足見川

笹間 俊秋 安藤 宣朗 参加者19名(会員11名)

カワウ、ダイサギ、サシバ、カワセミ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、コシアカツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、スズメ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、チドリ類(種類不明) 計17種

朝まで雨が降っていましたが、実施時間には薄日が漏れており、無事開催することが出来ました。会員以外にも地元の方に多数参加していただきました。コース上にはツバメやコシアカツバメがいっぱい飛んでいます。橋の上ではダイサギがとまり、その真下でカワウが餌を獲っており、意外なツーショットに皆さん喜んでいました。そして、上空をサシバが我々を監視するように何度も旋回していました。

●木曾岬干拓地探鳥会探鳥会

2018年6月24日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者24名(会員15名)

キジ(1)、カルガモ(20)、キジバト(3)、カワウ(70)、アオサギ(5)、ダイサギ(5)、チュウサギ(7)、コサギ(1)、ケリ(3)、コアジサシ(1)、ミサゴ(1)、トビ(1)、チョウゲンボウ(1)、ハシボソガラス(20)、ハシブトガラス(40)、シジュウカラ(2)、ヒバリ(10)、ツバメ(500)、ヒヨドリ(1)、ウグイス(5)、オオヨシキリ(5)、セッカ(10)、ムクドリ(3)、スズメ(50)、ハクセキレイ(4)、カワラヒワ(6)、ホオジロ(5)、ドバト(40) 計28種

梅雨の中休みの晴れで、24名もの参加がありました。チョウゲンボウやミサゴは観察できましたが、チュウヒは出てくれませんでした。ツバメの幼

鳥が干拓地上空で餌を捕っていました。

●富士山麓(朝霧高原・奥庭)宿泊探鳥会

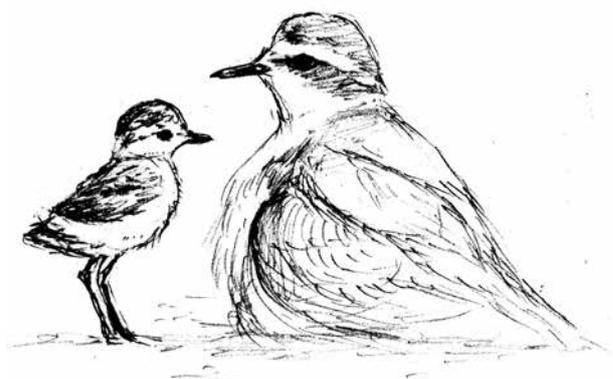
※別報告参照してください

2018年7月7日(土)～8日(日)

1日目 静岡県富士宮市 朝霧高原

2日目 山梨県鳴沢村 奥庭・お中道

西村 泉 小坂 里香



シロチドリ

●木曾岬干拓地探鳥会探鳥会

2018年7月22日(日) 9:00～11:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者 13名(会員 12名)

カルガモ(20)、キジバト(1)、カワウ(30)、アマサギ(1)、アオサギ(8)、ダイサギ(20)、チュウサギ(15)、コサギ(1)、ミサゴ(1)、オオタカ(1)、チョウゲンボウ(1)、ハシボソガラス(10)、ハシブトガラス(200)、シジュウカラ(1)、ヒバリ(10)、ツバメ(1500)、ヒヨドリ(1)、ウグイス(5)、セッカ(10)、スズメ(30)、ハクセキレイ(1)、カワラヒワ(8)、ホオジロ(2)、ドバト(100) 計 24種

環境省が発表する暑さ指数が危険の域に達しそうだったので、11時過ぎに終了になりました。ツバメは暑さにめげず、木曾岬干拓地の上空をたくさん飛んでいました。水田のサギ類は少し涼しそうに見えました。

編集後記

今回の野鳥記録は7件だけ…と寂しいですね。いわゆる「鳥の夏枯れ」の期間のみとなってしまったからでしょう。さらに今年の夏は大変な酷暑で鳥見をする機会が減った方も多かったのでは?と推測しています。

そんな「鳥の夏枯れ」の時期には、遠征に行かれる方もいますね。本誌の記事にもなった宿泊探鳥会「富士山麓(朝霧高原・奥庭)」もその一つで、とても良いところだったようです。かく言う私も北海道の稚内、礼文島へ行ってきました。探鳥旅行という訳ではなかったのですが、セグロカモメの営巣が見れたし、オオジシギのディスプレイフライト、ツメナガセキレイなども見れました。特に礼文島は天候に恵まらなかったため、天気の良いときにまた行ってみたいですね。

他にもどこか遠くへ出かけた方もいるでしょうか。良いところだったらぜひ原稿をかいてくださいね。(A.M)

会報「しろちどり」バックナンバーのウェブ上での公開について

当会のホームページでは会報「しろちどり」の発行から2年を過ぎたバックナンバーを公開しています。会報にはいくつかの個人情報が含まれており、公開が不適当と考えられるものは削除した上で公開しています。

探鳥会や催し物の連絡のために掲載した会員の住所、電話番号、メールアドレスは削除してあります。ただし、代表、事務局長の住所、および事務局の当会専用電話番号の番号は削除してありません。以上の点についてご意見があれば当会へお寄せください。(平井)

しろちどり 97号

2018年9月25日発行

題字:濱田 稔

表紙絵:石原 宏

カット:平井 正志

編集:平井 正志・笹間 俊秋・三曾田 明

発行所:日本野鳥の会三重

平井 正志 方

〒514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

ホームページ <http://miebird.org/>

印刷:株式会社プリントパック

〒617-0003 京都府向日市